

「プチ留学」で成功する人&失敗する人の分岐点

海外留学アドバイザー 清水 武

「ただの観光旅行では飽きてしまった」「留学してみたいけれど時間がない」「使える英語を身につけたい」・・・こんな考え、夢を抱いている人へのおススメが「プチ留学」。夏休みを活用して思い切って飛び出してみたとき、次の新しい道が開かれてくるかもしれません。とはいえ、なんとなく憧れて、だけではお金と時間を無駄にする可能性の高いのもまた事実。そこで留学を実のあるものにしていくためのヒントと、成功する人と失敗する人の違いを紹介してみましょう。(Olmanual 7月号掲載)



① プチ留学と本格的な留学はどう違う？

本格的な留学は期間が1年から数年なのに対して、プチ留学は仕事や学校の休みを利用して、最短1週間から旅行感覚で気軽に行けるのが特徴です。その範囲は語学留学に限らず、海外でのお稽古ごととかボランティア体験的な留学といったケースもあります。また、長期留学のための下見として活用することもできます。

期間的にも、費用的にも手の届くところでの「留学」です。語学について言えば、現地で英語（他言語の場合も）に慣れ、その後の学習のモチベーションを高めるものとなり、さらに滞在する国の文化や歴史を知り、現地市民との交流を通しての異文化の体験もできます。仮にそれが短期間であっても、取り組み方によってはその後の生き方や人生観に大きな変化をもたらす可能性さえ秘めているでしょう。

② プチ留学を行うにあたっての心得——こんなところに気をつけよう

留学先を決める場合、国や都市、目的にあった学校、そして予算などをベースに検討します。プチ留学でしたら、まずは憧れの国や都市を選ぶことにより精神的な満足度も高くなるでしょう。学校と予算については、旅行社や留学案内業者がさまざまな企画を提供しています。インターネットでも検索でき、そこではホームステイ先の家族の状況まで写真付きで知ることができるものもあります。

語学力がどのくらい必要？といった疑問もあるかもしれません。これについては、現地ではレベルに応じたクラス分けをしますので問題はありません。大事なことは、せっかく外国に行くのですから、恥ずかしさを捨て、下手でも積極的にしゃべりまくることですね。私が留学していたスペインのマラガ大学のクラスでは、いつも担当の先生が言っていました。「日本からの学生はなかなか発言しようとしな。だから何を考えているのかわからない」。また人気のあった年配の先生はいつも辛口で訴えていました。「学校では、授業中はもちろん、休み時間でも絶対に日本語でしゃべってはいけない!」。日本からの留学生が数

人いると、すぐにグループを作り日本語で話し合ってしまうからです。

そこへいくと、北欧やアメリカ、さらにアフリカなどからの留学生は、どんどん発言をしていました。日本人よりもっと下手なスペイン語にもかかわらず、です。間違ってもいからクラスでも街中でもどんどん話していくこと、自分の英語を試していくことがポイントです。



次に、プチ留学の場合、その準備期間の短さや便利のよさから旅行社や留学業者を通して進めることが多いでしょう。その場合、払い込む留学費用がいくらで、個人負担になる費用項目は何かを確認しておくことが大切です。

エージェントによって違いますが、一般に留学費用として請求されるものは、学校への入学金・授業料、

滞在先（ホテルまたはホームステイなど）の宿泊代・食事代、滞在先手配料、現地に到着・帰国時の送迎費用、往復の航空代金、海外旅行傷害保険料、パスポート・ビザ申請手数料、取り扱い手数料などです。（この請求が入っていない場合には、本人が個人で払うことになります）

さらに現地では、学校までの通学費用、教材費、アクティビティ（クラス外活動）参加費、昼食代、それにお小遣いなどが必要になります。こうしたことが明確になっている信頼できる業者の選択が大切になります。現地に行ってみて、事前に説明されていた状況と違ったからといっても、ほとんどの場合お金が戻ることはないからです。

それと海外旅行傷害保険は必ず入りましょう。万が一、病気になったり怪我をしたような場合の治療費は、外国では想像外の高額になります。たった数日間の入院が 100 万円をはるかに超えるようなケースがいくらかでもあるからです。

③ 留学をより充実させるための準備と現地での生活

まず留学の目的をはっきりさせることが大切です。現地で何をしたいのか、英語であればどこまでのレベルアップを図りたいか等ですね。例えば、帰国後の TOEIC や TOEFL 受験の獲得スコア目標を作っておけば、励みにもなります。英検受験のための刺激を得てくることでも OK です。あるいは、そんなに硬く考えずに、初めから、異文化体験と海外生活を楽しんでくる、でもよいでしょう。目的がはっきりしていれば、なんとなく留学期間が終わってしまった、という苦い思いは避けられますね。

それと事前の情報収集と準備です。今はエージェントがさまざまな企画を提供していますので、そこから情報が得られるでしょう。でも、さらに自分自身でも調べてみることも

大事です。外務省のホームページを検索して、その国や都市の安全情報を入手したり、現地紹介の本などに目を通しておくこと。それにより、より効果的に安全に留学地で生活することができます。

次に、現地事情に合わせた携行品を用意しましょう。荷物は少ないほど楽。現地で調達できるものは現地で。ただし、衣装はサイズが合わないものもあるので自分にあつたものを持参。常備薬や化粧品も自分がふだん使っているものを。一般に外国の薬は日本のものよりも強く(日本人の体格が小さいことからくる)、そのまま服用すると思わぬ副作用が出ることもあります。電化製品は、日本と電圧が違う国もあるので、その場合には変圧器とアダプターを持参する必要もあります。

食事については、せっかく外国で生活するわけですから、その土地のものを食べ、食文化を味わうようにしたいですね。でも、「どうしても日本の味を！」という人は、味噌、しょうゆ、真空パックの漬物類、海苔、梅干などを持っていくのもよいでしょう。在住日本人の多い都市なら、日本食も手に入りますが、値段は日本よりはるかに高くなります。そしてこれらの持参品のチェックリストを作ってみることで。

さて、現地での生活ですが、留学で上手くいかなかった人の多くは、日本の価値観をそのまま外国にも適用しているような気がします。外国では当然、文化や生活慣習も異なるわけです。いろんな面で勝手に違い、現地の悪い面のみが目につくこともあるかもしれません。

「x xは日本の方がはるかに進んでいる。x xのサービスもなっていない」・・・なんて

不満ばかり並べても解決しません。その地方にはその地方の伝統や習慣、やり方があり、それがその国・地方のリズムに合っているのです。それらに溶け込み、そのリズムに乗って、その違いを楽しむくらいの心がけが大事でしょう。

最後に、留学では1日24時間のすべてが勉強の場であるということですね。充実して帰国した人は、学校以外の時間も有効に活用しています。クラスで知り合った友人やホームステイ先の家族との出会いも貴重な体験となります。それは即、言葉の実践の場ともなり、生きた外国語を使う醍醐味を味わうこともできます。帰国後の交流は、自分の人生を大きく広げてくれるきっかけにもなりうるのです。



④ 後悔のない、有意義なプチ留学を行うには？

短期間の留学で、目に見えた語学の上達の成果を期待することは無理かもしれません。でも、現地でネイティブと話したという体験がその後の学習の自信となり、次の大きな飛躍につながっていきます。さらに、語学だけでなく、新鮮な感受性を持っている若いとき

に、世界にはいろんな人がいて、いろんな考え方があり、いろんな生き方がある、ということを実体験でき、自分の考え方や生き方の幅が広がっていくことが素晴らしいのです。

成果はすぐに目に見えないかもしれませんが、でも、長い人生の間には、その留学体験は自分の大きな力となっていきます。海外に行けば、そこで日本や日本人の生き方を見つめなおすこともできます。もっと言えば、留学とは素晴らしい思い出を刻むと共に、お金を出して苦労を経験、精神的に自立し、異なった価値観を学ぶことによって、人間的な成長を図っていくものとも言えるでしょう。自分の思いを理解してくれた会社や家族など、周囲のサポートに感謝して帰国できたなら、その留学は成功だったといえるでしょう。

⑤ Having よりも Being、大きな夢が大きな人生を創ります



私自身は定年1年目に、横田基地の中にあるセントラル・テキサス・カレッジに聴講生として学び、2年目にはスペインのマラガ大学に1年間留学しました。特にスペインでの生活は長い私の人生の中で最も充実した1年でした。こうした生き方をぜひ同世代の皆さんにも伝えたいと、「『定年留学』してみませんか？——60歳からのアクティブ・ライフのすゝめ——」との本を出版しました。帰国後は、高校の国際理解の教材作りや

講演活動など、いろんな道が開かれてきました。なによりもこの留学が機縁で世界文学紀行「名作の舞台を訪ねて」と壮大な夢に向かって進めるようになったのです。

夢が、志が人を創ります。大きな夢と志は大きな人生を創ります。自分を高めていくのも、貧しくさせていくのも、私はこの心次第だと思います。世界には経済的なものだけでなく、もっとエキサイティングで大事なことがいっぱいあります。そんな異質な文化や生き方に感動し、啓発され、自らの世界が広がるのが留学の一面とも言えるでしょう。

若い間は Having よりも Being が大事だと思います。財産や貯金を持っているより、今、何をやろうとしているかが問題。財布にいくら入っているかが問題ではない。心にどんな夢を描いているかが問題なのです。留学は将来の自分への投資とも言えます。思い切って飛び出せば、思っても見なかった世界が開けてきます。その後の人生が充実してきます。まさに Boys(Girls), be ambitious! です。さあ、あなたも思い切ってトライしてみませんか？

プロフィール

清水 武 (しみず たけし)

1941年長野県に生まれる。早稲田大学卒業。NHK学園高校の教諭として勤務後、新聞社の特派員として10年間、北南米、ヨーロッパの32カ国を訪問する。2001年に定年退職後、

福生市のセントラル・テキサス・カレッジで学び、02年にはスペインのマラガ大学に1年間留学。現在は世界文学紀行「名作の舞台を訪ねて」をライフワークに、NPOで在日外国人の支援活動にもあたっている。

著書に『定年留学』してみませんか?」などがる。

旅行作家 海外留学アドバイザー 英語・スペイン語講師・通訳 NPOシニア大衆登録講師

日本ペンクラブ会員

[近況] 一昨年は『ドン・キホーテ』出版400周年のスペインを、昨年は70周年の『風とともに去りぬ』のアメリカを訪れました。次は、明年100周年となる『赤毛のアン』の舞台・カナダを訪れる予定です。

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/donky/>